

潮流発電用タービン模型の性能実験を公開

当研究所は、再生可能エネルギーの一つである潮流海流発電に関する研究を進めていますが、7月27日、開発している発電用タービン模型を用いて、タービンの発電効率に係るトルク性能、及び全体システムの安定性・安全性に影響を及ぼす抵抗性能を計測する実験を公開しました。同日は厳しい暑さとなりましたが、21名の方々が訪れ、中水槽を使った公開実験に参加されました。

同日の公開実験でお見せしたのは、斜流状態でのマルチ



公開実験の様子

ロータ模型の性能試験。実際の海では潮流が一様に流れているとは限らず、地形影響や波の影響で潮流の流向は変化することがありますが、その場合に当該システムがどの程度影響を受けるのかを調べることを目的としたものです。マルチロータ模型の要目は直径が0.5m、翼数は2翼×2セット、翼型はNACA4409を使用しました。

公開実験では、曳引台車からマルチロータ模型の様子を見てもらうため、2班に分けて台車に搭乗していただき、



マルチロータ模型

その後、質疑応答へ。参加者の関心も高く、活発な質疑応答となりました。

インターカレッジサークルの学生6名が施設見学

インターカレッジサークルの学生6名が8月27日、当研究所の施設を見学するとともに、浮体構造物に関する講義を聴講しました。

このインターカレッジサークルは「未来企画部」と称し、代表者の木田七海子さん（聖心女子大学史学科2年生）によれば、「さまざまな社会的課題の中から将来性のあるテーマを設定し、フィールドワークを実施する活動を展開している」とのこと。今回は「浮体構造物」をテーマに選び、それに関連した研究施設を見学するために当研究所を訪れました。当日、

参加した学生の皆さんの所属大学は聖心女子大学、早稲田大学、成蹊大学、東海大学、ルーテル学院大学。変動風水洞をはじめ、実海域再現水槽、400m水槽の3施設を見学し、併せて浮体構造物に関する講義を受講しました。講義を担当したのは、洋上再生エネルギー開発系・海洋エネルギー研究グループの國分健太郎主任研究員。

なお、同日の見学会には7名のインターンシップ生も参加しました。



浮体構造物の講義



実海域再現水槽の見学